

平成22年 新たに発生が確認された病害虫、今後の発生に注意を要する病害虫等

農作物名	病害虫名	発生地域	発生確認年月	発生・被害の概要等
水稻	ヒメナガカメムシ (特異発生)	西北地域	平成22年5月	育苗中に認められ、葉鞘への吸汁痕が数棟の育苗ハウスで認められた。前年、育苗後から越冬後までビニルをはがず、雑草が繁茂した状態であったため、発生したと考えられた。 (農林総合研究所、病害虫防除所)
キク	トマト黄化えそウイルス (TSWV：発生拡大)	西北地域	平成22年5月	品種「寄の八海」に葉の黄化、えそ、輪紋症状が認められた。ImmunoStripによる検定の結果、病原はTSWVと診断した。 (農林総合研究所)
アスター	キタネコブ センチュウ	三八地域	平成22年5月	クロピク未消毒ハウスにて、生育が叢生した株が散在し、根に多数の瘤が着生していた。前作いちご栽培時にも「こぶ症状」が見られていたとのことや瘤の形状から「キタネコブセンチュウ」と判断した。 (病害虫防除所)
インパチエンス	インパチエンス ネクロティック スポットウイルス (INSV：発生拡大)	西北地域	平成22年6月	インパチエンスに茎の黒変、葉の輪紋症状が認められた。ImmunoStrip及びRT-PCRによる検定の結果、病原はINSVと診断した。 (農林総合研究所)
日本なし 西洋なし	ナシキジラミ (特異発生)	南部町 五戸町	平成22年6月	訪花蜂への影響を避けて、エルサン乳剤等を散布していないりんごやなしの混合園や隣接園で、ナシキジラミの発生が目立った。被害症状は、葉の湾曲と果実のすす病症状を確認した。 (りんご研究所南果樹部) (病害虫防除所)
じゃがいも	ジャガイモ シストセンチュウ (未発生地域 への発生拡大)	横浜町	平成22年6月	大豆田地区や家ノ前川目地区で著しい生育不良株を認め、植物検診の結果、本種シストの着生を確認した。 町内の次作栽培予定畑の土壌検診を実施した結果、6地区においてジャガイモシストセンチュウの汚染畑を確認した。 (病害虫防除所)
にんじん	しみ腐病	おいらせ町 中南地域	平成22年6月 ～7月	おいらせ町では収穫前の根部が軟化して表皮が薄く剥げ落ち、地上部の胚軸まで腐敗して茎折れや茎枯れとなる症状が、水の溜まり易い畑で坪状発生した。中南地域では収穫後の根部表面に黒いしみや縦に亀裂ができる症状が確認された。両症状からピシウム菌が分離され、含菌接種により被害症状が再現された。軟化した表皮や胚軸の腐敗部に卵孢子等を確認し、「しみ腐病」と判断した。 (病害虫防除所)

農作物名	病害虫名	発生地域	発生確認年月	発生・被害の概要等
トマト	葉かび病 (CF抵抗性品種)	東北町 七戸町 三戸町	平成22年6月、 8～9月	葉かび病抵抗性品種「ギフト」、「麗夏」、「りんか」で葉かび病の発生が確認され、「CF 9 感受性菌」の発生が疑われる。 (病害虫防除所)
キク	キク茎えそウイルス (CSNV：発生拡大)	東青地域 西北地域	平成22年7月、 平成22年10月	東青地域の品種「パトリック」「エルザ」「レサーピンク」に、西北地域の品種「神馬」に葉の黄化えそ及び茎のえそ症状が認められた。RT-PCRによる検定の結果、病原はいずれの地域ともにCSNVと診断した。 (農林総合研究所)
いちご	サビヒョウタン ゾウムシ	農林総合研 究所内圃場	平成22年7月 ～11月	所内いちご栽培ハウスにおいて、7月～10月に成虫による葉の食害症状株を、10月～11月には幼虫の根部食害による萎ちよう症状を確認した。いちごの株元から成虫を採取し、その雄交尾器に付属する内袋内にある小骨片の形状からサビヒョウタンゾウムシと同定した。 所内においてこれまでに発生したごぼうやじゃがいものヒョウタンゾウムシ類幼虫による被害は本種によるものと推察される。 (野菜研究所 病害虫防除所)
メロン	サツマイモ ネコブセンチュウ	西北地域	平成22年8月	平成22年度農薬展示圃場試験圃場で収穫終了時の根こぶ被害を調査し、キタネコブセンチュウと異なる瘤症状を認め、瘤内の雌成虫の陰門観察よりサツマイモネコブセンチュウと同定した。果実収量等に実被害なし。 (農林総合研究所)
ダイズ	茎疫病 (特異発生)	農林総合研 究所内圃場	平成22年8月	所内ダイズ栽培圃場において、立ち枯れ症状株が見られたため、地上部の褐変部分を検鏡したところ、卵胞子が多数確認され、茎疫病菌と判断した。 (農林総合研究所)
ダイズ	ミツモンキン ウワバ (特異発生)	津軽地域	平成22年8月	広い範囲のダイズ圃場において茎葉食害が発生した。8月20日の巡回調査では、発生程度の高いところでは草冠部の葉が葉脈を残す程度までに食害された。巡回時の発育ステージはいずれも蛹～成虫期で揃っていた。7月中旬以降、成虫の飛来があったものと考えられる。 (病害虫防除所)
飼料作物	スジコガネ (特異発生)	上北地域 下北地域	平成22年8月 ～9月	コガネムシ類幼虫による牧草の生育不良や表層剥離が上北北部と下北地域で確認された。幼虫のラスターの形状からスジコガネによるものと判断した。 (病害虫防除所)

農作物名	病虫害名	発生地域	発生確認年月	発生・被害の概要等
花木 特産果樹	アメリカシロヒトリ (特異発生)	南部町 八戸市	平成22年8月 ～9月	南部町のナナカマド、クヌギ、クルミや民家庭先のあんずやかき、ブルーンに発生を確認。八戸市内のナナカマド、プラタナスでも確認した。 なお、上北地域で広くみられたクワなどの巣網は、クワゴマダラヒトリによるものである。 (病虫害防除所)
とうもろこし ほか全般	オオタバコガ (特異発生)	東青地域 中南地域 上北地域	平成22年8月 ～9月	オオタバコガの発生・被害が多かった。とうもろこしやピーマンなどの露地栽培では有効な対策がなく、被害が甚大であった。 (野菜研究所 病虫害防除所)
もも	せん孔細菌病 (特異発生)	三八地域	平成22年8月 ～9月	三八地域で発病果率60%以上の甚発生園地が目立った。病原菌密度が高まり、翌年の春型枝病斑の増加と果実被害が懸念される。 (りんご研究所県南果樹部) (病虫害防除所)
水稻	もみ枯細菌病 (特異発生)	農林総合研 究所内圃場	平成22年8月 ～9月	所内水田「つがるロマン」でもみ枯細菌病による重症穂(槍穂)を確認した。青森県での発生は非常にまれで、過去にも高温年には槍穂が見られたことがある。 (農林総合研究所)
水稻	イチモンジセセリ (特異発生)	階上町 八戸市 おいらせ町 三沢市	平成22年8月 ～9月	三八及び上北地域の太平洋沿岸地域で止め葉まで激しく食害されている水田が見られ、いずれも出穂期の薬剤散布を行っていない水田であった。8月上旬に一次飛来があったと考えられる。 (病虫害防除所)
水稻	褐色葉枯病 (特異発生)	西北地域	平成22年9月	9月に西北地域県民局地域農林水産部農業普及振興室つがる分室より葉身から葉先にかけての褐変枯死と穂の褐変についての検定依頼があった。検鏡の結果、子のう殻および分生子を確認、褐色葉枯病と診断した。 (農林総合研究所)
水稻	黒しゅ病	県内各地	平成22年9月	初発時期は不明だが、9月上旬に県内各地で確認された。本病は、これまで日和見的に散見されたことがあるが、本年は県内各地で確認され、発病程度も高かった。 本年は収穫期が早かったため、本病による葉の黄化枯死、被害の有無は未調査。気象条件との関係は不明。 (農林総合研究所)